

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 めろん 組	6 月 10 日 (火)	神田

● 実施計画

活動テーマ

サイエンス ~天気~
虹についてしよう

活動テーマに関する 日頃の興味関心について

日頃から子どもたちは天気の変化に興味を示しており、「今日は晴れだね」など関心をもった発言をしている。また他の活動で雲や雨についての話をしたり、絵本や図鑑などで天気について知ることができ興味が高まっている子が増えてきた。

活動スケジュール

環境設定 ・ 準備物

時間	内容	環境設定 ・ 準備物
15:45	<ul style="list-style-type: none"> ・くもり、雨、雪、晴れ以外の天気や、空に現れる現象は何か考え、発表する。 ・「晴れ、くもり、雨、雪の他に知っている天気はあるかな？」と問いかけていく。 ・意見はホワイトボードにまとめていく。 ・虹を見たことがあるか、虹はどんな色か考え発表する。「虹はどんな時に見ることが出来るかな？」と問いかけ、実体験から天気との結びつきに発展するよう援助する。 	【環境設定】 <ul style="list-style-type: none"> ・室内で実験が安全に行えるスペースを確保する 【準備物】 <ul style="list-style-type: none"> ・懐中電灯 ・虹のイラスト ※人数分 ・クレヨン（色鉛筆）※人数分 ・ペットボトル(表面が滑らかで円筒形のもの) ・水 ・アルミホイルをつけた白色灯の懐中電灯 ※それぞれ実験できる数 ・白い紙 ・ホワイトボード ・ホワイトボードマーカー ・虹の写真
15:55	<ul style="list-style-type: none"> ・虹の色や太陽の光について自由に発言し、子どもたちが知っていることを共有してみる。虹の色を予測して絵を描いてみる。 ・虹の色については固定せず、それぞれが感じる色で書いて良い事を伝える。 	【実験】 <ol style="list-style-type: none"> ①水が入ったペットボトルを用意する。 ②①のペットボトルを白色画用紙の前に置く。 ③正面から懐中電灯で光を当てる。
16:10	<ul style="list-style-type: none"> ・アルミホイル、懐中電灯、ペットボトルを使って実験を行う。【実験①】 ・光を水に通すことで虹が現れることを観察し、実際に虹を作る体験をする。 ・「何が見えるかな?」「虹ができたね。虹は何色かな?」と伝え、観察の視点や試行錯誤が広がるようにする。 	
16:25	<ul style="list-style-type: none"> ・虹ができる仕組みを振り返り、太陽の光が実際にいろいろな色を含んでいることを理解し、光と色の関係について話し合う。 ・「虹が見える時は、雨上がりが多いね。」「虹が見えている時、太陽はいるかな?」と問いかけ、水(雨、水蒸気)と光(太陽)によって虹ができていことに気付けるように工夫する。 	

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<ul style="list-style-type: none"> ・最初に「虹は何色?」という問いを投げかけ、子どもたちは自分の考えを自由に発表した。 ・その後、虹を描いて光の色を予測をしたり、イラストを見たりして、実験を行い、光が水を通ると実際に虹が現れることを確認した。 ・ペットボトルと懐中電灯を使い、光が水を通することで色が分かれる現象を観察し、実際に虹を作り、その過程を実感することができた。 	【子どもの姿・声】 天気にはどんな種類があるか問いかけたが、「虹」のワードはなかなか上がらなかった。虹を描く際に色の指定はしていないが、想像力豊かに集中して描いていた。実験になるとみんな興味津々で、薄っすらではあったが虹は何色なのかを観察していた。 【保育者との関わり】 <ul style="list-style-type: none"> ・「虹はどんな時にできるかな?」と問いかけ、子どもたちが自分で考える機会を作った。 ・実験時は安全に配慮しながら、子どもたちが自ら試せるようにサポートした。

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<p>・活動を通じて、虹の色に対する興味を深め、実験を通じてそれらの関係性を理解できた。 また後日公園で霧吹きを使って虹を見せたことで子ども達も喜んでいった。 ・子ども達同士が意見を出し合う活動は実施しなかったので今後は意見を伝える、意見を聞くことを取り入れていきたい。 ・実験活動を取り入れたことで、子どもたちの理解が深まり、より興味をもって参加する様子が見られた。今後も実際に体験できる活動を取り入れていきたい。</p>	<p>実際に虹を見られることは少ないので、色々な工夫をして虫玉(7色)に似たものを見られたのは良かったぞう。 戸外でも活動につながりが持てる良かったぞう。</p>

実施クラス			実施日			実施保育者名		
5	歳児	めろん 組	7	月	8 日 (火)	神田		

● 実施計画

活動テーマ	
たべもの ~水~ 水ってなに？	
活動テーマに関する 日頃の興味関心について	
水を触ったときの冷たさや流れる様子、こぼれたり消えたりする不思議さに日常的に興味をもっている。「なんでぬれるの?」「なんで流れるの?」と、感覚を通じた体験から水に関心を寄せている。	
活動スケジュール	環境設定 ・ 準備物
時間	内容
15:30	<ul style="list-style-type: none"> 水とは何かを問いかける。 子どもたちの意見をホワイトボードにまとめる。
15:35	<ul style="list-style-type: none"> 水をコップに入れて観察してみる。 さまざまな形の容器に水を入れて、形の変化を探究してみる。
15:40	<ul style="list-style-type: none"> スロープに水を流して流れる様子を探究してみる。 探検での発見や感想を発表する。発表の内容をホワイトボードにまとめていく。
15:55	<ul style="list-style-type: none"> 水の性質について確認する。
【環境設定】 <ul style="list-style-type: none"> 安全に探究できるよう環境を設定する。 子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作る。 正解を求めるのではなく予想し考える態度を大切にする。 【活動使用教材】 <ul style="list-style-type: none"> 水 ・ 絵の具(水色) 透明のプラスチックコップ さまざまな形の容器 (皿、コップ、袋など) スロープ ・ ホワイトボード ホワイトボードマーカー 【事前準備】 <ul style="list-style-type: none"> 水を扱う活動になるため、水で濡れる点に注意し、転倒などの事故を防ぐよう環境を設定しておく。 牛乳パックやペットボトルなどで傾斜のあるコース(スロープ)を用意しておく。子どもたちと作成しても良い。 ※切り口でけがをしないよう配慮する。 	

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<ul style="list-style-type: none"> 導入では、水はどのようなものか考え、「洗うときに使う」「汗」「つめたい」「あたたかいのみもの」など、日常生活からくるもの、感覚や印象から水について考える発言していた。 水について、色、形、におい、感触や流れ、状態変化など体験を通じて探究を深めた。 振り返りでは、気づきや調べた内容を共有し合った。 	【子どもの姿・声】 <ul style="list-style-type: none"> 「水って大切なもの」 「水色って水の色とは違う。水は透明で水色は薄い青色」 「水って入れる容器によって形が変わる」 「入れる水の量が違うと形もかわる」 スロープには慎重に水を流す子、勢いよく流す子など様々な姿がみられた。 発見を友達に共有する姿が見られた。 【保育者との関わり】 <ul style="list-style-type: none"> 子どもが見つけたことに対して、「ほんとうだね！なんでそうなるんだろう?」と問いかけを重ねることで、さらに観察や考察が深まるように意識した。 一人ひとりの気づきをみんなで共有できるように、「Cくんはどう思った?」「Bちゃんはどうだった?」と対話をつなげた。

● 振り返り

保育者側の気づき	園長からの感想・助言内容
<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちは、普段当たり前に触れている水について問いかけたことで新たな発見が生まれ興味を持っていた。 「水とは?」の問いかけにみんなが真剣に考えて答えてくれる姿が見られた。 子どもによって着目するポイントが異なり、一人ひとりの視点や感じ方に違いがあることがよくわかった。 実験を通して、より水の性質や特徴を捉えることができたように思う。 	<p>いつも身近で当たり前にあり、触れ合っている「水」だからこそ改めて意識をもつと考えること、違う視点から関わりとび新鮮な気づきや発見、鯉の尾に箸かきのはないでしょうが、今日の取組をきっかけに、子ども達が生活の中の水に対して関心を深め、広げてくださいと思います。</p>

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 めろん 組	10 月 15 日 (水)	神田

● 実施計画

活動テーマ		
アート～色のふしぎ～ 色をつくってみよう！		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
身近な絵の具やクレヨンを使い、赤・青・黄などの色を混ぜて新しい色を発見している。『ちがう色になった！』『ジュースみたいな色になったよ』と驚きや喜びを表現している。自分の手で色を生み出すことにワクワクし、もっと混ぜてみたい、他の色でも試したいという意欲をもっている。		
活動スケジュール		環境設定・準備物
時間	内容	
10:00～10:15	<ul style="list-style-type: none"> ・「この色を作りたい、どうしたらいいかな？」と問いかけ、興味を引き出す。 ・「絵の具にない色はあるかな？どのくらいあるかな？」など、混色について考える。 ・色の三原色(赤・青・黄)について紹介し、色を作る仕組みを知らせる。 ・どの色とどの色を混ぜると新しい色ができるか予想する。 ・作りたい色を決め、どのように混ぜるか考える。 	<p>【環境設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが自由に色作りを楽しめるよう、十分な作業スペースを確保し、こぼしても問題のない環境を整える。 ・子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作る。 <p>【準備物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・混色ガイド ・2オンスの透明カップ ・色水(赤、青、黄色) ・スポイト <p>【事前準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・色の三原色や三属性について理解し混色のしくみを理解する。
10:15～10:35	<ul style="list-style-type: none"> ・透明カップと色水(赤・青・黄)を使い、スポイトで混ぜながら色を作る。 ・どのように混ぜると希望の色になるか試行錯誤しながら観察する。 ・できた色を見比べながら、「混ぜる色の量によって変わる？」など気づきを話し合う。 ・「他にどんな色を作れるかな？」と、さらに混ぜることに挑戦する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2オンスの透明カップと赤青黄色白黒の色水を作っておく。
10:35～10:45	<ul style="list-style-type: none"> ・どの色とどの色を混ぜたらお気に入りの色ができたかを発表する。 ・「どうやって作った？」と問いかけ、色作りのプロセスを振り返る。 ・色の三原色や混色の仕組みを再確認し、色作りの楽しさを意識できるようにする。 ・「次はどんな色を作りたい？」と問いかけ、次の活動につなげる。 	

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<p>子どもたちは、自分の好きな色を作ることになり、「もっといろいろな色を作りたい！」と積極的に活動に取り組んだ。</p> <p>混色を試しながら、「思ったより暗くなった！」「こんな色もできるんだ！」といった気づきを楽しんでいた。</p> <p>どの色を混ぜたらよいか考えながら試行錯誤する姿が見られた。</p>	<p>【子どもの姿・声】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「レモン色とぶどう色を混ぜたらミルクティー色になったよ！」「洋服と同じ色になったよ！」「全部混ぜたらこんな色になったよ！すごいね。」などそれぞれの気づきを発言する様子が見られた。 <p>【保育者との関わり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しい色や面白い色ができると嬉しそうに保育者に伝える姿があったので嬉しい気持ちを共感できるような言葉をかけた。また、「もし白を混ぜたらどうなるかな？」など、新しい試みに挑戦できるようなサポートを行った。

● 振り返り

保育者側の気づき	園長からの感想・助言内容
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちは、色作りの過程に強い興味をもち、試行錯誤しながら色の変化を楽しんでいた。 ・予想と違う色ができることも学びの一つとなり、発見を喜ぶ姿が多く見られた。 ・絵の具を使った製作が好きな子が多いので今回の活動では色について知り探究心がより深まる活動となった。自分なりの工夫を加える姿勢が育まれていた。 	<p>活動中の子ども達の表情が豊かで見ているこちらも嬉しくなりました。</p> <p>思った色にならなくて喜ぶ子、「違う」と言って再挑戦をする子、とても楽しそうでした。</p>

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 めろん 組	/ 月 28 日 (水)	神田

● 実施計画

活動テーマ		
おかね ～おかねってなんだろう～ 必要なもの？ 欲しいもの？		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
<p>前回の買い物体験で、お金の量には限りがあるため、欲しいものを全てでは買えないことを実感した。その経験から、「欲しいもの」と「絶対に必要なもの」を区別し、優先順位をつけてお金を使うという、より実践的な課題に関心が高まっている。</p>		
		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
10:00～10:10	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の活動を振り返り、お金の量には限りがあること、何を一番買いたかったかを再確認する。 ・「お熱が出て病院に行くとき」を例に、絶対に必要なものと、無くても大丈夫なものをみんなで考えてみる。 ・具体的な場面設定で必要なものと買わないものを考えるグループ活動につなげる。 	<p>【環境設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作り、一人ひとりの意見を尊重し、受け止める。 ・正解・不正解を明らかにするのではなく、多様な捉え方や考える姿勢・態度を大切にする。 <p>【活動使用教材】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商品カード(生活用品、食べ物、玩具などが描かれたカード) ・模造紙 ・ホワイトボード ・ホワイトボードマーカー
10:10～10:30	<ul style="list-style-type: none"> ・「カレーライスを作るための買い物」の状況と架空の所持金を設定し、各グループで「必要なもの」と「欲しいけど買わないもの」を話し合い、買うものを決める。 	<p>【事前準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商品カードを作成する。カードには値段と名前、イラストや写真を分かりやすく記載し、生活用品、食べ物、お菓子、玩具、移動手段などさまざまな商品を想定する。
10:30～10:40	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループが、決めた「必要なもの」「欲しいけど買わないもの」と、その理由を発表する。 ・他のグループの発表を聞いて気づいたことや感じたことを発表する。 ・人によって必要なものや欲しいものが違うことを考察する。 ・お金がたくさんあれば欲しいものがたくさん買える、ではどうすればお金が得られるのか、次回探究することを伝える。 	

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<p>・導入では、お金には限りがあることを再確認した後、「お熱が出て病院に行くとき」を例に、みんなで絶対に必要なものと無くても大丈夫なものを考えた。</p> <p>・展開では、「カレーライスを作るための買い物」という具体的な状況と架空の所持金を設定し、グループワークを行った。子どもたちは商品カードを使い、「お肉は絶対必要だけど、お菓子は我慢しよう」など、活発に話し合い、何を買うかの優先順位をつけた。</p> <p>・まとめでは、各グループが発表し、なぜその商品が必要だと判断したのか、なぜ欲しいけど買わないと決めたのか、その理由を説明した。他のグループの意見を聞くことで、「人によって必要なものや欲しいものは違う」という多様な価値観に気づく機会となった。</p>	<p>【子どもの姿・声】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3グループは：わかれて「カレーを作るために必要なもの」を話し合った。意見がとんとん出てチームと何から音声が迷うゆ、ひびきのチームと様々だったが、始める前に言葉で話し合った。決められる頃になると前回よりもめまはしく、それぞれ意見をだしながら進めていた。 <p>【保育者との関わり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動の内容をしっかりと理解し話し合いができていて、言葉を交わし合いながら進めようとする姿勢をグループごとにしめ、楽しく活動できるように関わった。 ・発表する時は、話をきく側も静かに耳を傾けられるよう注目しやすい言葉かけを工夫した。

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<p>・「必要なもの」と「欲しいもの」を区別する活動を通して、子どもたちは自分の感情(欲しいという欲求)と、状況に応じた論理的な判断(優先順位)を区別する力を育んだ。将来の健全な金銭感覚を養う上で非常に重要な一歩だと感じた。</p> <p>・グループでの話し合いを通じて、子どもたちは「お金の使い方には、人それぞれ、状況それぞれの考え方がある」という多様な価値観に触れ、社会性を育むことへつながった。</p> <p>・「お金がたくさんあれば」という問いは、子どもたちの関心を「お金をどう使うか」から「お金をどう得るか」という次の探究テーマへの期待感を高めることができた。</p> <p>・今回もグループでの話し合いを通して、色々な友達の新発見に気がついたが、個人の価値観のふくらみを感じた。ほいほいと買物するものという新しい視点で考えられたこともいい機会とふり返った。</p>	<p>園長からの感想・助言内容</p> <p>「カレーを作るために」という目標を定めたことで、子ども達のイメージがしやすくなり、自分の家のカレーの具材、自分が入れたい物など、より活発な意見交換が出来たのではと思います。</p>

ものという新しい視点で考えられたこともいい機会とふり返った。